

調査1 田んぼや水路には、どんな魚がいるのだろう？

田んぼのまわりに すむ魚たち

平成13年度から18年度までの6年間の調査で、27科124種が確認されました。
これは日本に生息する淡水魚約300種の約41%にあたります。

農村地域でよく見られる魚たち

田んぼのまわり の水路



①ドジョウ 12cm



②メダカ 4cm

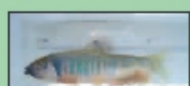


③タモロコ 10cm



④モツゴ 8cm

両方で 見られる



⑤オイカワ 15cm



コイ 60cm



ギンブナ 25cm

川



アユ 20cm



ウグイ 30cm

魚はその種類によって、好み環境や生活の場が異なるため、田んぼや水路、川だけにすむ魚、移動しながらどちらにもすむ魚などがあります。調査の結果、これらの魚のすむ場所の違いが確認されました。

※①～⑥は、田んぼの生きもの調査で確認された地域が多い順番を表しています。

場所により生息する魚が変わることを確認

北海道

東北

関東

北陸

東海

近畿

中国四国

九州

沖縄

ドジョウ
12cm



タモロコ 10cm

メダカ 4cm

アブラハヤ 13cm

オイカワ 15cm

カフムツ 15cm

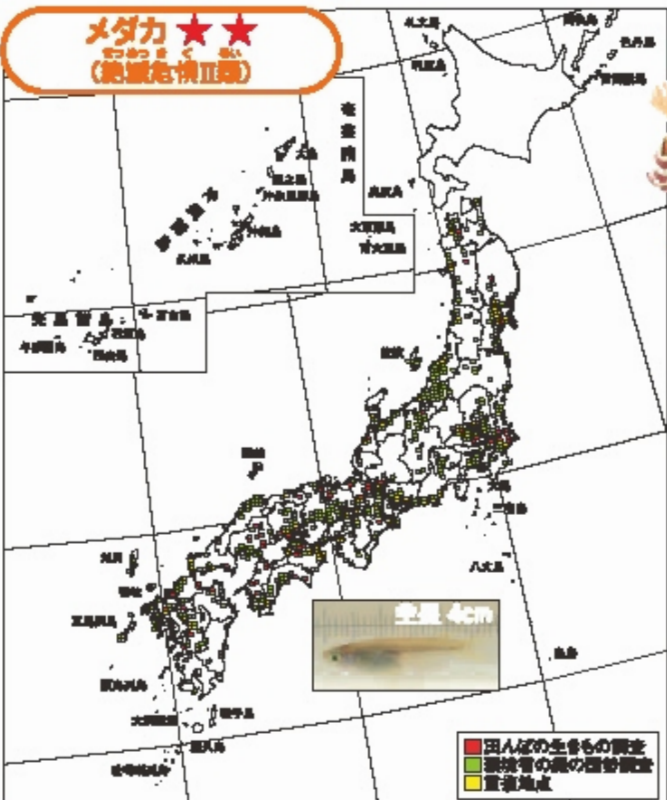
タカハヤ 10cm

平地

山間

ドジョウは沖縄を除く全国のほとんどの地域で、平野から山間部まで広くすんでいる、農村地域の代表的な魚といえます。また、アブラハヤとオイカワは東日本と西日本に、タモロコやメダカとタカハヤは平地と山間で、すむ場所が分かれていることが確認されました。

メダカ★★★ (絶滅危惧Ⅱ類)



希少種

確認された主な希少種

★★★★★
(絶滅危惧ⅠA類)



ニッポンバラタナゴ 5cm
体高が高く、腹びれ前縁は白くない



ホトケドジョウ 6cm
体は太くて短く、口ひきは8本ある



カワバタモロコ 5cm
体高はやや高く、口は斜め上を肉いて鋭く



スジシマドジョウ 小型種 5cm
体の側面に横や点列状のすじがあり、口ひきは8本ある



イチモンシタナゴ 8cm
体高は低く、体の側面には太く明確な「一」文字と見える線がある

★★★★★
(絶滅危惧ⅠB類)

希少種(環境省のレッドデータブック掲載種)のうち、約1/4にあたる24種が確認されました。田んぼのまわりでも希少種がすんでいます。なかでもメダカは168の地域で新たに見つかりました。メダカなどの希少種を守るためにも、これからも継続的な調査をする必要があります。

★★★★★
(絶滅危惧ⅠA類)
ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

★★★★
(絶滅危惧ⅠB類)
★★★★ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種

★★★
(絶滅危惧Ⅱ類)
絶滅の危険が増大している種

★
(準絶滅危惧)
現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

調査2 田んぼのまわりには、どんなカエルがいるのだろう？

田んぼのまわりに すむカエルたち

カエルの調査では、4科19種の確認されました。これは、日本に生息するカエルの全42種の約45%にあたります。もっとも確認地点数
が多かった種はニホンアマガエルで、またトノサマガエル、ヌマガエル、トウキョウダルマガエル、ツチガエルも多く確認されました。

ニホンアマガエル

ニホンアマガエル

体長 3cm



もっとも多く、
各地で見られるよ。



希少種

体長 5cm



トウキョウダルマガエル ★(準絶滅危惧)

仙台から関東だけで
見られるよ。



東海から中国地方で
見られるよ。

ナゴヤダルマガエル ★★★(絶滅危惧I B類)



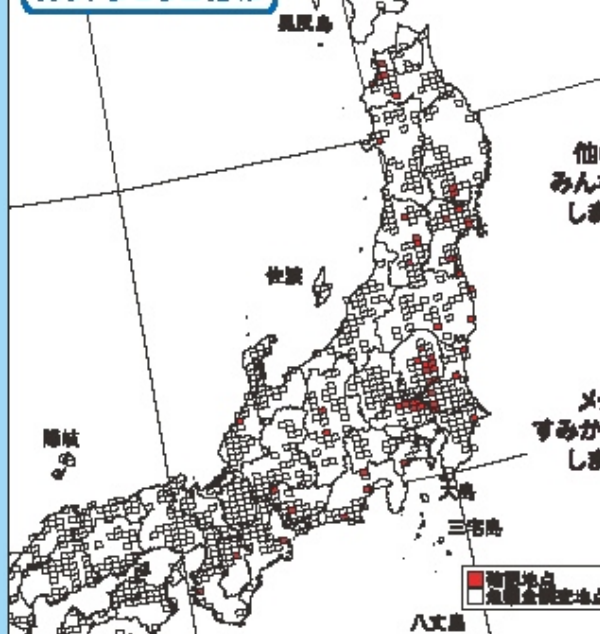
TOPIC

カラドジョウの
分布がわかったよ。



10本の長い口ひげ
尾の付け根が太い
日本のドジョウより強いといわれている
カラドジョウについて、重点的に調査を
行ってきた結果、東日本を中心に各地
に分布していることが明らかになりました。
これからは、分布の広がりなどに
注意し、引き続き調査を続けることが
必要です。

カラドジョウの分布



生態系に被害を与える生きものたち(外国から来た生きもの)

生態系に大きな影響を及ぼす外国から来た生きもの。魚ではオオクチバス(ブラックバス)、
カダヤシなど15種、カエルではオオヒキガエル、ウシガエルの2種が見つかっています。
これらの広がりなどについて、分布状況を監視し調査を続けていくことが大切です。

調査で確認された特定外来生物※

※「外来生物法」により、飼育、運搬、保管などが規制された外来生物のことです。

他の魚を
みんな食べて
しまうんだ



オオクチバス 40cm
口が大きく、背びれが
前後2つに分かれている

オオヒキガエル 12cm
体は太く短く、
体色は茶色系である



メダカの
すみかをうばって
しまうんだ



カダヤシ 4cm
メダカに似るが、
しりびれの基部は短い



ブルーギル 25cm
体高が高く、えらぶた
後端に黒い斑がある



ウシガエル 16cm
目の横に大きな鼓膜があり、
いつも水辺にいる

調査結果

全国のおみんなが参加し
1万地点以上で調査しました

- 小学生や地域住民を含め、延べ2,173団体、2万人以上が参加しました。
- 生きものや田んぼのまわりの環境についてみんなで考えました。
- みんなが参加できる調査方法は、専門家と相談しながら決めました。

わかったことは

全国の田んぼまわりの生きものの分布がわかりました。

- 魚124種(全種の約4割)、カエル19種(全種の約5割)の分布がわかりました。田んぼのまわりは、
生きもののおかげで大切な場所になっています。
- 多くの希少種も田んぼのまわりで見つかりました。
- 外来種が各地に侵入していることがわかりました。

生きものが好む環境が少しわかりました。

- 魚の種類によって、農業水路を好むものと川を好むものが違います。
- ドジョウは土の水路を好みます。コンクリートの水路でも底にドロがある水路には多くいます。

今後の展開

まず田んぼに入ってみよう

生きもの大切さを伝えよう

希少種とその環境を守ろう

外来種の侵入に注意しよう

たくさんの生きものを知り、
守っていこう

田んぼや水路のいろいろな役割を
伝えよう

田んぼの生きものとともに暮らせる
取組みを進めよう

田んぼや水路を学びの場、
遊びの場としてとらえ、
田んぼの生きもの調査の取組みの輪を
さらに広げていきます

- 調査方法を工夫します
- 参加者を増やします
- 成果をよくまとめます
- 調査対象を増やします
- リーダーを育てます
- 地域づくりに活かします